

Showcase Gallery

April 2020 → March 2021

横浜市民ギャラリーあざみ野 エントランスロビー

観覧無料

主催：横浜市民ギャラリーあざみ野
(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

宮内由梨 Yuri MIYAUCHI

樹脂、蠟、布、金属、植物、音などを用いて立体物や空間をつくる。活動初期は、特定の土地の歴史や自然環境に影響を受け制作。2017年以降、慢性的な病いや、別離の体験がもたらす苦痛との共生あるいは抵抗を主題としている。



略歴

1988年長野県生まれ。京都造形芸術大学芸術表現・アートプロデュース学科卒業(BA)。主な個展に、2017年「It's My Red Life」Courtney Pope 199(ロンドン)、「清五郎さん-WHERE HAVE YOU GONE?」顕法寺(新潟)。グループ展に、2019年「黄金町バザール2019」八番館(横浜)、2018年「水と土の芸術祭2018」清五郎湯(新潟)。2020年黄金町バザール(横浜)に参加予定。

谷本真理 Mari TANIMOTO

経験や体験、行為、現象など、あらゆることから抽出されたものが作品につながっています。私の作品制作には自然と「遊び」や「偶然性」が伴うのですが、それは魅力的なハプニングであると感じます。今まで彫刻やインスタレーションなどの様々な方法で作品を制作してきました。近年は粘土のゆがみや釉薬の流れなど、コントロールしきれないものにおもしろさを感じていて、陶器の作品を制作しています。



略歴

1986年兵庫県生まれ。2012年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了。主な個展に2019年「ごっこ？」FINCH ARTS(京都)、2014年「Under 35 谷本真理展」BankART Studio NYK(神奈川)、主なグループ展に2019年「一方そのころ -meanwhile-」KAYOKOYUKI(東京)、2017年「清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2017」(審査員賞『田中泯賞』受賞)岐阜県美術館(岐阜)、2011年「新・陶・宣言」豊田市美術館(愛知)など。

大野陽生 Haruki OHNO

人型の彫刻を石芯塑造といわれる技法(石を丸彫りして心棒を作り、その上から粘土を盛ってモデリング造形をする技法)から着想を得て制作している。ロマネスク彫刻や日本の道祖神のような、環境に沿ったささやかな悦びだったりを表すものや、生活の中から生まれるある種の「切実さ」みたいなものに心を惹かれる。宗教とは別の信仰心がそこにはあると考え、自分の立場や環境を残す・記録するためのものとして作品発表をしている。



略歴

1992年埼玉県生まれ。2017年武蔵野美術大学大学院修士課程造形研究科美術専攻彫刻コース修了。主な個展に2018年「NEIGHBOR」代田橋 納戸/gallery DEN5(東京)、2017年「むしろ例えてしまう」大野陽生展「HOAX」東京造形大mime(東京)など、グループ展に2019年金沢彫刻祭2019「別人」芸宿(石川)、「腕の向き、膝の位置」gallery - TOWED(東京)、「OMUSUBI vol.2」405観光(東京)、「crossing」HAGIWARA PROJECTS(東京)、2018年「Lucky Open Day 2018」LUCKY★STUDIO(埼玉)、「共同体について」URANO(東京)など。

安部寿紗 Kazusa ABE

2007年よりお米を主題とした作品制作をはじめた。お米に至った初期衝動はとても単純でその圧倒的な数の力に驚きを覚えた事だった。お米の持つ性質、一粒の粒種から千粒以上ものお米が実るその数の力に圧倒された。一粒の中にある可能性を思うと、小さな楕円形の中に途方も無い数、距離、時間、永続的な物を思い描くようになる。以降、お米にまつわる伝承やお米そのものの生態に自分の内面を投影させた作品を制作している。



略歴

1984年兵庫県出身、横浜市在住。主な個展に2017年「遍照」はじまりの杜(兵庫)、2008年「お米展」guild gallery(大阪)、グループ展に2011年、2009年「Happy maker in 高野山」(和歌山)。2018年、2017年「Jeju art fair」(韓国)参加。2017年、2012年「NPO法人BEPUPROJECT運営のAIR清島アパート」にて滞在制作。2019年より「黄金町アーティストインレジデンス」レジデンス・アーティスト。

横浜市民ギャラリーあざみ野

〒225-0012 横浜市青葉区あざみ野南1-17-3

アートフォーラムあざみ野内

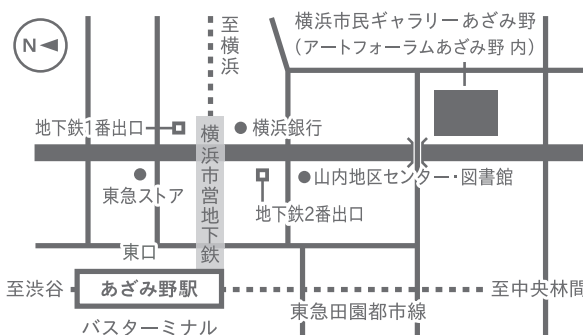
TEL:045-910-5656 / FAX:045-910-5674

Email: info@artazamino.jp URL: http://artazamino.jp/

【最寄り駅】東急田園都市線「あざみ野駅」東口 徒歩5分

横浜市営地下鉄「あざみ野駅」1・2番出口 徒歩5分

【駐車場】27台(有料・予約制) TEL:045-914-5910



beyond
2020



清五郎さん／2015年／FRP

1 宮内由梨展

2020/4/25sat → 7/8wed
9:00-21:00 5月25日(月)、6月22日(月) 休館

陶の特性を造形に取り入れながら制作する、水町文美の作品をご紹介します。水町が土を積み上げ、形づくり、土がそれ自体の特性で変形するとともに様々なテクスチャーを表し、そこにまた水町が手を加える作業を繰り返す制作の過程は、水町が土に内在する自然と向き合う行為でもあります。最終的に焼成を経て現れた有機的な形態。

2 谷本真理展

2020/7/11sat → 9/20sun
9:00-21:00 7月27日(月)、8月24日(月) 休館

盆栽や花壇、ダムやリゾート地などの人工の風景をモチーフにFRP(樹脂)で制作する椋本真理子をご紹介します。制作にあたって椋本は、インターネットでモチーフを検索し、見つけた画像をもとに立体を立ち上げます。ありふれたイメージを人工的な素材と単純化した形態、鮮やかな色彩でポップに表現する椋本の彫刻は、モチーフとなった元の風景の人為性を際立たせ。



リゾート／2016年／FRP、ラッカー塗料

3 大野陽生展

2020/9/26sat → 12/13sun
9:00-21:00 10月26日(月)、11月23日(月) 休館



TALISMAN／2019年／鉛

木、金属、石膏、布、紙など、質感や組成の異なる素材を巧みに組み合わせて立体を制作する作家、土肥美穂の作品をご紹介します。土肥は素材に対し、打つ、曲げる、接合する、固める、彩色するなど様々な行為を行います。土肥の動作によって素材は複雑に絡み合い、固さと柔らかさ、厚さと薄さ、内と外など様々な対立する要素が共存する重層的な空間がそこに生まれ、鑑賞者の知覚を刺激します。

4 安部寿紗展

2021/1/9sat → 3/21sun
9:00-21:00 1月25日(月)、2月22日(月) 休館

大野綾子は、日常の中で眼にした植物、生活用品、風景、動作する人などあらゆるものや事象を、石による彫刻で表現しています。何気ないモチーフですが、大野が形や質感、モチーフがたたえる空気感を丹念に見つめ、石という堅牢な素材の制約を引き受けながら、面と線で繊細に構成された形にすることで、ものが持つ動きやリズムまでも表現し、独自の軽やかさを獲得しています。



日の目みる／2018年／紙、線香